

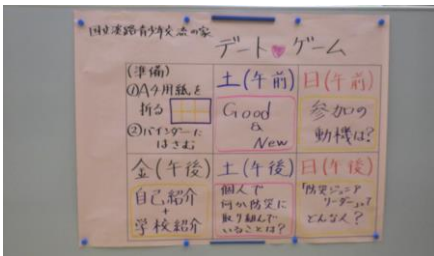
# 「平成29年度 全国防災ジュニアリーダー育成合宿」 実施報告

- 1 趣 旨：これからの防災・減災の担い手である中学生・高校生を対象に、阪神・淡路大震災の教訓を学び、今後の災害に備え、その取組や内容を日本全体に広げていく。
- 2 日 時：平成30年1月11日（木）16：00～14日（日）12：00
- 3 場 所：兵庫県立舞子高等学校、国立淡路青少年交流の家、人と防災未来センター
- 4 対 象：兵庫県内外の中学生・高校生および引率教員（県内15校、県外8校）
- 5 参加者：66名（県内32名、県外34名）
- 6 プログラムの内容：

## 【1日目】 1月11日（木）

### 20：00 交流会

兵庫県外から集まった中高生16名で交流会を開いた。参加者同士でテーマに合わせて話し合った。テーマの内容を5つ設定し、一つ目の「自己紹介」から最後には「防災ジュニアリーダーってどんな人か？」について、ペアで考えた。緊張していた表情も、交流会が終わるころには和やかな雰囲気になり、笑顔が見えるようになった。



## 【2日目】 1月12日（金）

### 9：00 兵庫県立舞子高校「震災メモリアル行事」

宮城県在住のシンガーソングライター幹mikiさんによる追悼演奏が行われた。東日本大震災における被災地などで、音楽による支援活動を行っており、今回は『光』をはじめとする全5曲を披露してくれた。柔らかく包み込むような声で、家族との絆やふるさととの大切さ、自然と共に生きることなどを歌にのせて伝えてくれた。



### 15：30 講義①「災害と向き合う」

講師 防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪 清二 氏

阪神淡路大震災では建物が崩れたことで多くの方が亡くなったことから耐震が必要であること、ボランティア活動をする際には「しゃべる力」とそれ以上に「聴く力」が大事であるといった話があった。また、高校生をはじめとする若者が、復興支援やボランティア活動のために被災地へ足を運ぶことが大切であることも熱く語ってくれた。「子どもが動くと、下を向いていた大人が前を向く」など、若者の影響力の大きさを特に強調していた。



### 19：50 WS①アイスブレイク&フリートーク

県内外の参加者全員揃っての交流会を行った。「どこから来たのか」、「諏訪先生の講義で印象に残っていることは何か」などの質問を添えて、全員の前で自己紹介をしてもらった。その後のテーマトークでは、「防災について自分が話し合ってみたい事」についてそれぞれ班を作り、情報交換をした。初対面にもかかわらず、自分の学校のことを積極的に伝えたり、仲間の話をメモしたりと、防災に対する意識の高さを感じる雰囲気であった。



## 【3日目】 1月13日（土）

### 8：30 WS②「避難所運営の実際」

講師 東北大学特任教授 齋藤 幸男 氏

東日本大震災当時や避難所の様子を写真で説明してもらった。参加者は避難所の様子を聞きながら、避

難所を運営する中でどんなことが起こるのか、どんな役割が必要なのか、などを想像しながらメモを取っていた。

その後は、生徒と大人(引率の先生)とで分かれてそれぞれでグループを作り、「避難者がペットを連れてきたら?」、「救援物資はどこに保管するべき?」など、避難所で実際に起こった事例をどのように解決すべきかについて意見を交わした。各グループの意見発表では、大人もハッとさせられるような意見が飛び出すこともあった。参加者は少数派の意見もないがしろにせず討議を行い、「もしも自分が避難所を運営することになったら」という課題に真剣に向き合っていた。

最後には各グループで「避難所運営の組織図づくり」を行い、避難者に「安心」と「信頼」を与えるべく工夫された組織図が出来上がった。



### 13:00 WS③「メモリアルキャンドル制作」

講師 神戸市立神港橋高校 堀江 俊志 氏

翌日の三宮東遊園地に飾る「メモリアルキャンドル」を作った。真剣に防災について学んでいた参加者も、この時には笑顔があふれ、学校も校種も関係なく楽しそうにクラフト活動に打ち込んでいた。



### 14:20 WS④「アクションプラン作成」

講師 兵庫県立舞子高校 和田 茂 氏

「県内外参加者、男女混合」でグループを組み、各校の様々な取組について意見交換を行った。参加者のアンケートからも、この時間が一番充実感を持っていたようで、自身の学校に何かヒントを持って帰ろうと、必死でメモを取っている姿が印象的だった。そのためか「もっと色々な学校の人と話し合いをしたかった」、「交流の時間を増やしてほしい」との意見がとても多かった。



### 15:30 WS⑤、⑥「活動報告およびアクションプラン作成・発表」

講師 兵庫県立舞子高校 小竹 貴介 氏、佐野 代行 氏

アクションプランの発表では、情報交換を経た参加者それぞれが、各校の現状と課題を踏まえたプランを提示した。他校の参加者からの質問も活発に行われ、短時間の作業だったにもかかわらず、具体的に実現可能な計画に練られているという印象を受けた。他校の生徒同士で意気投合し、「学校の垣根を越えて一緒に募金活動をしたい」という話にまで広がる学校もあり、各校の取り組みが全国へ広がっていく瞬間を見ることができた。



【4日目】 1月14日(日)

### 9:50 人と防災未来センター施設見学

阪神・淡路大震災の再現VTRを視聴し、被災当時の様子が分かる様々な展示物を見て回った。参加者達は思い思いのブースで足を止め、震災の爪痕や地震のメカニズムなど、防災について積極的に学んだ。

### 11:10 三宮東遊園地見学

毎年「1.17のつどい」が行われている三宮東遊園地に足を運んだ。前日に作ったメモリアルキャンドルを『1.17』に並べ、それを囲むように円を作って黙とうを行った。その後、阪神・淡路大震災で亡くなった方々のネームプレートや「希望の灯り」を見学した。最後には別れを惜しんだり、再会を誓って神戸の街を去る参加者がいたり、防災の取り組みが人をつなぐ様子を見ることができた。



### 7 参加者の声

- ・防災について今まで以上に知識を得ることができて良かった。
- ・災害時の対策を色々な視点で学ぶことができた。
- ・齋藤先生の「生徒を育てるのは生徒」という言葉が印象的だった。
- ・こんなに詳しく当時の事を聞いたのは初めてだった。とても心に響いた。
- ・遠くから来たかいがあった。多くを学べた。



### 8. 所感

- ・3年連続で事業を担当したことで、舞子高校との打ち合わせや準備に関しての見通しが立ち、スムーズに運営できた。
- ・昨年以上に参加者同士が話し合える時間を多く取り入れたことにより、短期間にもかかわらず生徒同士の雰囲気よくなり、合宿終盤のアクションプラン作成では情報交換が活発に行われていた。
- ・多彩な講師の方々にご講演いただき、参加者だけでなく引率教員まで巻き込んでのワークショップは、非常に面白かった。大人も真剣に防災と向き合って意見を出し、参加者の中高生の意見と比較したことで、参加者にとってより効果的な学びの場となった。